

# 不安を抱える女性に寄り添う、 女性活躍社会に向けたレジリエンス強化事業【旭川市】

個別事業費	10,543 千円
交付金額	7,907 千円

## 地域の実情と課題

- ・景気の影響を受けやすい女性の就労状況  
非正規従業員の割合は、男性については60歳以上が6割を占めているが、女性の場合は59歳以下が7割を超えているため、女性の方がより契機による影響を受けやすく、失職後に深刻な状況に陥りやすい。
- ・地域社会から孤立しやすい女性の増加  
進学・就職を機に転入する若年女性が多く、地縁がなく、休校やオンライン授業、失業等を機に孤立しやすい。

## 目的・目標

- ・事業目標  
本事業を通じて新たに支援に繋がった人数  
目標値 35人／実績値 7人
- ・事業KPI  
本事業を通じた新規アウトリーチ人数  
目標値 50人／実績値 26人

## 事業の特徴

- ・地域に出向いた出張相談会の実施
- ・社会福祉協議会の既存事業や関係機関との連携による対象者の把握
- ・学生の夏期休暇に合わせて旭川駅や駅横の商業施設のトイレで相談窓口周知チラシを梱包した生理用品を配布
- ・義務教育が終了する中学3年の女子生徒を対象に、相談・支援窓口を記載したカードを同封した生理用品を配付
- ・相談員のスキルアップを目的に、法律や精神障害に関する研修会を実施

## 連携団体

ウイメンズネット旭川  
旭川NPOサポートセンター  
旭川市自立サポートセンター  
ワーカーズコープ旭川  
民生委員・児童委員  
旭川おとな食堂(子どもの居場所づくり事業のネットワーク)  
高等学校・大学・専門学校  
ハローワーク旭川 他

## 事業の効果

事業目標及び事業KPIともに目標値を下回ったものの、障害特性により、他者との関係性を構築または継続しにくい等の対応困難ケースに対し、寄り添った支援を行うことが出来た。

また、窓口周知については、駅等への周知資材設置や中学3年生への資材配付など、新たな周知ルートを開拓したことで、より効果的な周知の道筋を得ることができた。

## 今後の課題

従前の取組では若年層の利用が著しく低かったことから、今後は、既存の相談窓口につながりにくい層にもアプローチできるような仕掛けづくりやアプローチ方法が求められる。

また、若年であるほど、必要な情報を獲得できず自身の困難に気づかない傾向があるとともに、正しい支援につながりにくいため、より積極的なアウトリーチに取り組む必要がある。

## 事業の概要

### 相談を受け、次に繋げる

#### ●不安を抱える女性からの相談業務

- ・対象者からメール、電話又は面談による相談を受け、助言や情報提供を行う。
- ・地域を巡回して行う出張相談会を開催し、地域での相談対応を行う。

#### ●関係機関との連携と同行支援

- ・対象者の相談を受け、必要な支援が受けられる窓口やかんげに引き継ぐ。
- ・手続きなどに支援が必要な相談者の場合は、同行支援をし、相談者の補助を行う。

### 相談者を窓口に繋げる

#### ●生理用品を用いた相談窓口の周知

- ・対象者の把握及び相談に繋げる入り口として、相談窓口や市有施設等で生理用品の提供を行う。
- ・学生の夏期休暇に合わせて、旭川駅や駅近くの商業施設のトイレで、生理用品と相談窓口周知カードを配布。
- ・義務教育が終了する中学3年の女子生徒を対象に、生理用品と相談窓口周知カードを配付。

#### ●生理用品を用いない相談窓口の周知

- ・フリーペーパーに、事業の広告を掲載。
- ・フェイスブックやXを活用した事業の周知。
- ・相談窓口周知チラシを関係機関や市有施設、ハローワークや地域包括支援センターなどに配布。



### 相談対応力向上

#### ●相談員スキルアップ研修の開催

- ・窓口対応職員や相談員を対象とした研修を開催。  
令和5年度は、法律に関する研修と、発達障害に関する研修の2回実施。

#### ●庁内窓口相談業務連携会議の設置及び開催

- ・庁内の窓口業務を担当する職員が集まり、情報交換や窓口連携に関する会議を行う。

令和5年度は、10課が参加する会議を2回開催した。

#### ●研修への参加

- ・最新の情報を得るため、国等が主催する研修に積極的に参加した。

